

大学院看護学研究科 博士前期課程		授業 科目	基礎看護学特講演習 Seminar/Practice in Nursing Skills			担当 教員	石原 逸子（専任） 柴田しおり（専任）	
開講年次	1～2年次	単位数	6単位	科目 分類	専門科目 基盤看護学	授業形態	ゼミ・実習	
選択必修	選 択	時間数	270時間			使用教室		
授業の目的及びねらい		臨床看護技術、看護技術研究および看護技術教育の現状を把握し、看護の本質と照らして看護技術の実践、研究、教育のあり方について模索する。						
授業のキーワード		看護技術、実践知、科学的根拠、						
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画							
1年前期 (90時間)	I. 各自が関心のある看護技術事象についての実践および研究の現状を明らかにする。 1) 文献検討 ・関心のある看護技術事象（テーマ）について、何がどこまでわかっているのかを明らかにする。 ・さらに何がわかれば技術として成立するのかを検討する。 2) 実習計画書の作成 ・関心のあるテーマについて、臨床における現状を体験するための実習計画について検討し、計画書を作成する。 ・その際、特講で学んだナイチンゲールの視点を活かす。							
1年後期 (150時間)	3) 実習（9～11月の間：90時間） ・計画に沿って、参加観察をする。 ・上記の内容を分析し、テーマに関する現状と課題について、討議する。 (ゼミ) 4) レポート作成 ・文献レビュー ・実習を通じて、テーマに関する現状と課題をまとめる。							
2年前期 (30時間)	II. 研究課題の明確化 Iを踏まえて、研究課題を明らかにする。 III. 方法論の検討（1～3月） 1) 測定指標や研究フィールドの条件等を選定するための演習を計画、実施する。 2) データ収集、分析方法について検討する。							
テキスト	なし							
参考文献	川口泰孝, 根本清次: 技術学としての看護学の立脚に向けて, 兵庫県立看護大学紀要 1, 27-34, 1994. 菱沼典子: 足浴の研究は何をいかに測っているのか-看護技術研究の方向性を考える, 日本看護技術学会誌 4(1):8-12, 2005. その他、適宜紹介します。							
成績評価の方法と基準	・ プレゼンテーションの明快さ、選択した文献の適切性、討議への参加態度など（各10%） ・ 実習計画書（30%） ・ レポート（40%）							
教員からのメッセージ	効果のある看護技術の根拠を求め、追究する視点を培うことができるよう根気強く取り組むことを期待します。							

